

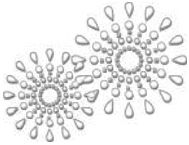


所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2021年8月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。開催の是非に様々な意見が飛び交う五輪ですが、それでも真剣に勝負に挑む選手の姿には、心を動かされるものがあります。膨大な情報の中で、最終的には自分の心が納得する選択が自分にとっての正解になります。知識や過去の常識にとらわれず、心動かされる未来を作るために、とこらぼの情報も活用していただきたいと思います。今後も皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



【とこらぼスタッフのつぶやき リーダー待望？】

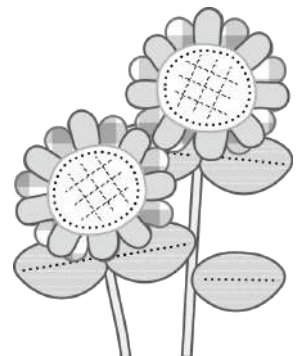
「汚染水はアンダーコントロール」、「復興五輪」という名のもと始まった東京オリンピックですが、原発事故はいまだに収束していません。

世の中でも多くの方が、オリンピックについて疑問を抱いているにもかかわらず、オリンピックを実施する側の人たちは、「自分たちには、中止をする権限はない」とか、「中止を決定できるのはIOCだけ」など、いったい誰の責任の下に行うのかを曖昧にし続けています。また、メジャーなマスコミは、ごく一部を除いて、いかにも公平な立場を装うあまり、それに対して、はっきりとした論評を避けているように思えます。

ここに至った過程は、歴史を普通に学んできた、普通の大人(大人でなくても)であれば、これは、まさに昭和の初めに戦争に突き進んだこの国の姿そのものであると感じているのではないのでしょうか。オリンピックがここまでこじれた原因の一つ(そもそも、金儲けの手段であるオリンピックが問題)に、コロナの問題がありますが、国やマスコミは、飲食店とか渋谷の交差点とか些末なことばかり取り上げて、問題の本質に人々の目を向けさせないようにしています。その結果、人々を反目させる自粛警察のような日常を不自由にする問題が生じています。もっともこういった手法は、コロナの問題に限りませんが...

こんな時こそ、一人一人が、自分の意思を何らかの形で主張していくことが必要だと思うのですが、現状は、いかにも『やってる感』を出している政治家たちを持ち上げて、強力なリーダーシップのもと現状を解決するのだというような雰囲気があります。確かに、自分で考えて、自分の責任で行動するのは大変なことです。考えるためには、正しく現状を認識しなければなりません。そのためには、正しい情報を得る必要があります。したがって、我々が政治家に求めるのは、強力なリーダーシップではなく正しい情報発信です。

原発事故から10年経ち、一体どのくらいの方が故郷に戻ることができたのでしょうか。故郷に帰れない人、廃炉作業や除染作業を続けている現場の人、正しい情報を提供するために、現地で放射線の測定を続けている人、がいるのだということを忘れないようにしたいと思います。(松村)



【小豆川勝見先生へ聞いて見よう 放射線のこんな事あんな事?】

前号掲載「小豆川勝見先生へのQ&A」がとても好評でしたので、今号から数回にわたり、皆様から質問を募集して先生に答えてもらう「小豆川先生質問コーナー」を設けました。

福島の前帰還困難区域に事故後からずっと今現在も毎月、測定調査に通い続けていて、誰よりも現地の放射線の事をご存じの「先生に聞いてみたいこんな事あんな事」をお寄せください。どんな質問にも、分かり易く答えてくださること請け合いです。皆さまからの質問募集中です。

第一回目の質問コーナーは、次の3点にお答え頂きました。

質問1

福島第一原子力発電所のALPSで処理された汚染水の中には、トリチウム以外の核種はありますか。

小豆川先生の答え

あります。もう少し詳しくご説明しますと、(といいながら、東電の説明がすべて事実であり、正しいことが前提です。これから述べるのが正しいかどうか確かめようがないので…)、ALPSが本気を出して常時フル稼働すれば、そこそこ綺麗に浄化できる良い装置なのですが、ALPSを通した水はみんな均一に頑張って処理されたわけではない、という経緯があります。少し長くなりますがご容赦ください。

まず、事故後の原子炉建屋から出てくる汚染水ですが、放射性物質で強烈に汚染されていますので、浄化する必要があります。ただ、その汚染水をいきなりALPSに投入するわけではありません。ALPSは最後の浄化装置として、最初に汚染水からセシウムをとって、淡水化して、ストロンチウムを取って、それから最後のALPSに、という順番を踏んでいます。なんでそんな面倒なことをしているかといえば、大本の汚染水のレベルが半端じゃなく汚いので、順を追って綺麗にしていかないと効率が悪いのです。(うんこまみれの下水から飲める水道水を作るようなものでして、下水をいきなり浄水器にかけないようなものです)。建屋から出てくる汚染水は1リットル当たり1億ベクレルくらいあります。フル稼働しているALPSを通過した水は(どんな除去装置でも取り除けないトリチウムを除いて)100ベクレルくらいまでに下がっているはず、です。

個人的には、ALPSの運用コストはべらぼうに高いのですが、カタログスペック自体はそれほど悪くない施設だと思えます。ただ、このALPSが「常時」「ちゃんと」「きちんと」運用されていればよかったのですが、残念ながらそうではありませんでした。福島第一原発の敷地内には、ALPSを通過した水を貯めておく多数のタンクが設置されていますが、その中の水のおおよそ71%の水がまともにALPSが回っていない時期のもので、基準を超えて放射性物質を含んでしまっています。

政府の方針によれば、将来(2年後のようです)、タンクの中の水を海洋に放出する、として水のかさを減らす処分方式が執られるようですが、そもそもタンクの水の大半がそのまま流すことができない水ですので、現在は「タンクの中のALPSがまともに動いていなかった時期の水をもう一度ALPSに入れて綺麗にする(2次処理と呼んでいます)」という作業が進められています。

質問2

一回の調査費用はどの位ですか。何人で行っていますか。どういうスタッフが同行していますか。年間幾らくらいあれば調査がやりやすいですか。

小豆川先生の答え

調査内容・人員にもよりますが、平均すると1回あたり10万円程度の費用を要しています。現地に行きするのは国内外の研究者がほとんどで、最小は2名ですが、5-6名のこともあります。防護服はそれほど高くない(1着1500円程度)ですが、コロナ対応での需要も高く、そちらとバッティングしてしまって、常時品薄で確保するのに苦労しています。調査費用に限れば、年100万もあれば持ち出しが少なくて助かります。

(以下、お台所事情です。私が大学から直接研究費としていただける額は年間30万円で、ここから諸経費が引かれ実質10万円以下です(教授クラスになれば、年間90万円くらいですが、ピンハネ分も上がりますので、実質50万円程度は自由に使える研究費)。もちろん、この額では何もできませんので、自分で研究費を稼ぐことが求められています。この条件は私だけでなく東京大学の全教員が同じですが、東京大学の支給額は、全国の大学で比較するとかなり優遇されている方だと思います。とはいえ、いずれにしても自前で研究費を調達しないと何もできないことには変わりはありません。

ちなみに日本の研究者がどれくらい競争的な研究費を獲得しているのか、「科研費データベース」で調べてみると大体の金額が分かります。

質問3

福島県の農業用ため池を除染しても雨が降ると、周囲の山林などから放射性物質が流れ込み、再汚染してしまうと伺いました。このことにはどのような対策が必要かとお考えですか。

小豆川先生の答え

残念ながら森林からの土砂、それに含まれる放射性物質の流れ込みを抑制することは困難です。流れ込む土砂を除いても除いても大雨のたびにまた蓄積されるためです。ため池の利用は、地域の合意がいちばん重要だと思いますので、まずそういった事実があることがため池利用者に周知されていること、常時モニタリングされていること、がお話合いの前提になるのかなと考えます。



【「小豆川先生の講演会記録映像」期間限定公開のお知らせ】

昨年秋に ZOOM で開催した小豆川先生の講演会を録画した映像の上映会を 4 月に開催したところ、大変ご好評をいただきました。そこで一人でも多くの皆さまにご覧いただけますよう、期間限定公開に踏み切ります。期間中、ご都合の付く時間に、何度でも視聴することができます。

小豆川勝見先生の分かり易い放射線のお話と、小豆川先生が帰還困難地域での測定作業を所沢の「とらぼ」測定室とインターネットで繋いだリアルタイムでの映像となっています。

但し、質疑の部分は長時間になるため割愛しました。質疑については前回のニュースレターに掲載していますので、そちらをご覧ください。

・先生の放射線の解説と、福島からの映像です。
約1時間。とても見応えがあります。

映像をご覧になりたい方は、
HPの予約・お問い合わせから
連絡をして下さい。

・上記映像から、先生の帰還困難区域での調査活動を
抜粋した 10 分間映像です。

映像の内容は、例えば空間線量が 300 μ Sv/h という途方もない大きな数字が随所でみられます。この数値が帰還困難地域ではどこにでもあたりまえに存在する値だそうです。

国が設置したモニタリングポストが 4.2 μ Sv/h を示していて、その 1m くらい離れた草むらでは 11 μ Sv/h を計測していました。

実際に測定している様子をリアルに見ることで、今の現況をそのまま感じていただけたらと思います。

* 記録映像を DVD でご希望の方は、一部 1000 円(送料込み)でお分けしますので、お知らせください。

とらぼでは、先生が継続して調査活動ができるよう寄附を募って応援しています。

先生は毎月、帰還困難区域へ調査活動のため足を運んでいます。そのための交通費、防護服、マスク、滞在費など先立つものが必要です。被ばく覚悟で現地に赴き、今の現地の実態(測定データ)を情報発信している先生のような研究者は、稀少な存在です。

先生のサイト(QR コード)へ直接寄附ができます。また、そちらへのアクセスが難しい場合は「とらぼ」へ入金して頂ければ、こちらからでも送金可能です。(小豆川先生寄付と送金伝票に記入してください)

☆注意とお願い☆

- ・維持会員とニュースレター会員の方に限定公開です。
- ・視聴可能期間は 9 月 30 日までです。
- ・録画・録音・スクリーンショット・ダウンロードなどは行わないで下さい。
- ・視聴後、ご感想や先生への質問をぜひお寄せください。

tokolabo2013@gmail.com

先生の寄付サイト→



【とらぼ利用者の声】

所沢・旭町の「自家製酵母ぱんと手づくりあんこの店 いちあん」の市川忍さんからの投稿です。

2009年に「いちあん」を創業しおかげさまで丸12年が経ちました。今の場所にお店を構えてからは6年ほど。月日が経つのは早いものですね。これまでのご利用ご支援、本当にありがとうございます。

2011年の原発事故による食材への放射性物質の影響を強く深く憂慮し、糸口を探し続け巡り合ったご縁のとらぼ。とらぼの立ち上げ期にわずかながらではありましたが参画させていただきました。10年が経過してもなお活動を続けられていることは、関わられる方々の多大なるご尽力あってのこと。心からの感謝と敬意を表します。

原発事故から10年たってもなお、その影響は消え去ることなく至る所に残り続けていますね。つい先日のとらぼの測定でも静岡県産の茶葉からセシウム137が検出されたという事実は記憶に新しいところ。

世の中のできごとは、ほぼ因果が存在し、原因があるから結果があると思っています。パンづくりを通じてもそのことは痛切に感じますし、原発事故により放射性物質が拡散されたから、茶葉から検出されたということもいわゆる因果。一方で、人の世界にはそれぞれの「都合」や「思惑」があふれていることもまたひとつ。

因果は覆しようがない傍ら、都合や思惑は非常に流動的なものでしょう。そんなこの世の中で「充実した生」を重ねるために、私自身このところ大切にしていることを挙げてみたいと思います。

- ・自分自身の「良い状態」を知り維持する行動を重ねること
 - ・因果に基づく客観的な事実に向き合うこと
 - ・考えること(≡インプットとアウトプット)
 - ・能動的に選ぶこと
 - ・近くにいる人こそ大切にすること
 - ・自分自身の「外側」との関りを増やし役に立つこと
- (特に、「考えること」はアップデート・更新が必要になる行動で、昨今では迷う≡考えるになっている場面に出くわすことが多く、結果自ずと能動的に選ぶことができなくなる(≡指示待ち・人任せ)傾向が色濃い世の中になってきてしまっているのではないかと思います。)

具体的な行動としては、運動(歩く・走る)、栄養素(特にミネラルと3大栄養素)に配慮した幸せと思える食事を取る、データを収集蓄積して考える材料にする、年間100冊を目標に読書をする、などしています。

ちなみに、なくても困らないもの、むしろ積極的に手放したほうが良いのではと思っているもの。テレビ、電子レンジ。テレビはずっと見ていませんでしたが、最近捨てました。電子レンジは何年も前に手放しました。ここ数年我が家は医療機関とはほぼ無縁です。これも因果でしょうか。

因果と向き合い、未来への行動のきっかけとして大切なとらぼという存在、私たちなりにお役に立てるあり方をこれからも探し続けていきたいと思っています。



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー

ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール:tokolabo2013@gmail.com 電話:080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。